

理事長所信

安藤 和幸

人とひとが絆で結ぶ「信頼創造」
～今こそ、光輝く地域を創る使命感を持って～

はじめに

2011年3月11日に起こった、私たちが今までに経験をしたことがない東日本大震災は、目を塞ぎたくなるほど過去に例のない犠牲と損害をもたらしました。今でもなお、多くの方々が避難所や仮設住宅等での厳しい生活を余儀なくされている状況です。

そのような中、私たちの住むかしま地域でも甚大なる被害を受けました。電気や上下水道・生活道路等のライフライン寸断をはじめ、瓦の落下や液状化による家屋等の損壊だけでなく、津波や液状化の影響によるコンビナートの操業停止、及び、原子力発電所の爆発による放射能汚染によって引き起こされた農水産物の風評被害及び生活環境汚染は今でもなお、このかしま地域に留まることなく、日本経済へと甚大な影響を与えています。

今回の未曾有（みぞう）の有事（ゆうじ）において、私が強く感じたことは普段からの人間関係が如何に重要かということでした。コミュニティーが確立され普段から近所の付き合いがある地域では、水や食料を分け合って難を乗り越えていたのに対し、人間関係の希薄している地域で、他人のことを気にはするものの協力し合うと言った行動するには中々至っておりませんでした。だからこそ、信頼できるコミュニティーの創造が、改めてこの現代に、そして、このかしま地域に必要なのではないかと感じております。もともと鹿島開発がされる前には貧しい農漁村地域だったこの地域では、お互いに協力し合うことが生き残るための術であって、強固なコミュニティーがあったことと思います。やがて貧しさから開発の恩恵を受け豊かになって行ったこの地域は、いつの間にか人との絆が失われていったように感じます。しかしながら、今回の震災で地域全体が被害を受け、皆がこの有事を乗り切ろうという共通認識を持って前を向き始めた時、私たち一人ひとりが復興に向けて自分に何ができるのかを考え、決してあきらめることなく先を見据えて行動していきました。そういったことを鑑みると、この地域は間違いなく大震災という計り知れない困難を乗り越え、今まで以上にお互いが信頼し合える地域へと成長できる可能性が十分にあるのではないかと強く感じております。

また、この震災で私たち青年会議所メンバーも自宅や会社、取引先や業務案件等何らかの被害を受け、日常生活もままならない状況に追い込まれたメンバーもいました。しかしながら、それぞれのメンバーが自分自身のためではなく、今何をすべきか、何が地域に求められているのか、そして何が自分達で出来るのかを考え、行動に移していきまし

た。公益社団法人かしま青年会議所という旗印の下に集まり、組織やつながりといったマスメリットを活かし、個々人では実行しにくい被災地や避難所への炊き出しだけでなく、寄付金を募るためにチャリティーTシャツの販売等を行ってまいりました。行動力を求められている青年会議所だからこそ、普段から公を意識している青年会議所だからこそ、一步一步前を向いて、未来に、そして地域に希望を持って活動出来たのではないかと確信しております。

そのような私たちだからこそ、手を取り合って皆で有事（ゆうじ）を乗り越えることができるよう、地域の絆をより強固にするよう、信頼し合えるコミュニティー構築のために市民へ『絆』を伝播（でんぱ）して行かなければなりません。公の思いを胸に、地域との信頼関係を築き、それぞれと強い絆を創っていくことが、やがて大きな輝きの灯（ともしび）となり、私たちの愛するこの郷土の復興へ、更にはこのかしま地域の輝かしい未来へとつながるものではないでしょうか。

私たちの郷土のために

私たち住む地域は、先人たちの血汗が滲むような努力と活躍があつてこそ成り立っています。50年前から始まった鹿島開発は、私たちのかしま地域を日本の中でも名だたる地域へと大きく飛躍させ、今や日本経済の一翼を担うまでの素材産業の地として世界に誇るべく鹿島臨海コンビナートを形成させました。だからこそ、私たちは、郷土が育んできた歴史や文化を大切にしながら、子どもからお年寄りまで一人ひとりがひかり輝き、これからもなお健康でこころ豊かに暮らしていける住みよい地域を持続させていく必要があります。そのためには、私たち一人ひとりが、今何が必要かを考え、それぞれが責任ある行動を持ち、自主的かつ主体的にまちづくりに関わっていく必要があります。

そこで、私たちは市民協働のまちづくりを進めるために、市民一人ひとりがまちづくりの主役として参加できる環境を整え、自らが問題を考え解決するための行動へとつなげるためにも市民討議会を推進し、まちづくりにより多くの市民を巻き込みこんでいきます。また、神栖市では市議会議員選挙が2月に行われます。しかしながら、若者を初め政治に対する無関心がさらに進み、市民は自らが主権者であることを忘れてしまったかのように政治を他人事のように捉（とら）え、誰が議員になっても地域は変わらないといった考えが蔓延していると感じます。政治を担う者にとっても、自らが主権者である市民のためにも、市民全員が自身のまちづくりに対する責任を行使できるよう公開討論会を推進していきます。自立した地域をつくるためにも、行政だけに任せていたまちづくりから市民一人ひとりが積極的にかかわれる機会を創造し、それを私たち青年に課（か）せられた責任そして使命とし、行政との信頼をより強いものにしていく必要があります。

地域の自然環境への取り組み

生活型公害や地球環境問題などの原因は、私たちのライフスタイルに大きく依存しているという事実は、既知（きち）のことだと思えます。温室効果ガスによる温暖化やオ

ゾン層の破壊、地下資源の枯渇（こかつ）や干ばつ・水害などによる食糧不足などの国境を越えた地球規模の問題から、ゴミの不法投棄や海岸の漂着ごみ、北浦・霞ヶ浦の水質悪化や家庭ごみ処理費の増大など私たちの身近な問題まで多種多様であり、かつ、未来を考えていけば全てが見逃すことが出来ない問題であり、その解決のためには私たち市民一人ひとりが環境への意識を高め、積極的かつ自発的に行動し、環境保全に向けて取り組むことが求められています。2011年3月11日の震災後、日本で暮らす上で普通に得ることが出来る日常生活がライフライン等の断絶により非日常的な生活を余儀なくされる事で、今までの生活環境がいかに恵まれていたか、多くの方々が気づかれたことでしょうか。また、水・電気・トイレやお風呂・エネルギーそして空気が、当たり前で得ることが出来ない環境になることで、経済優先の生活ではなく、いかに環境と共生し、持続発展出来る社会を考えていかなければならないことに気づいたことでしょうか。不便さの中にこそ、人間本来の心の豊かさがあり、物質主義ではなく生活の質を向上させることこそが、環境問題への解決の近道ではないでしょうか。これまでのように経済的・物質的な豊かさを優先することで環境への負荷が高まれば地球環境の破滅の危機は免（まぬ）がれません。今、私たちは、自然と共生し、持続可能な未来を創造することが求められているのではないのでしょうか。この地域に暮らす一人ひとりが、未来のために考え、実践していくことが大切です。『今、かしまから未来を変える。』そのために、地域の一人ひとりが一丸となり、行動する仕組みや実践できる社会環境づくりに取り組むためにも各種団体と環境に関する事業で連携を図っていききたいと思えます。

まさに、私たち公益社団法人かしま青年会議所が、地域を率先して環境行動を実践することにより、市民や行政、各種民間団体等お互いが連携し合い、地域一体となって『信頼の絆』が支える環境への取り組みが出来るかしま地域にしていきたいと思えます。

次世代に伝える

私が子どもの頃では、親や先生に怒られたりしても、そのことに腹を立て「殴ってやる」・「やり返してやる」というような発想はなかったように思います。また、一昔と今では、親の愛情表現にもずいぶん変化がでてきたようにも思われます。たとえば、今の若い世代の親は、子どもが欲しがればすぐにそのモノを買い与えてしまうことで子どもの欲求を満たそうとしてしまい、子どもが求めている本当の欲求に気づくこともなく手間暇かけて愛情を注ぐような機会がずいぶん少なくなったようなように思われます。そのような環境で育つ子どもたちは、物質的な欲求が優先され、何事にも効率性や合理性を求める思考をするように育ってしまうのではないのでしょうか。元来、子どもと親が信頼関係やより深い絆を築くためには、親子が様々な体験を通じ、お互いに思いやり、時間をかけて愛情を伝えあうことが大切だと思います。さらには、親という立場だけではなく、地域の大人として、社会を築きあげている先人として、次の世代のために何ができるのか、多面的に考えていくことが必要ではないのでしょうか。また、昔は学校の先生に頻りに叩かれたりした記憶がありますが体罰だったという記憶はありません。なぜならば、そこには先生と私には信頼関係があったからです。信頼関係のない中での厳しい

指導は、暴言や虐待、そして暴力に結びつくことがあります。しかしながら、お互いに信頼し合えれば、それは愛情と捉える事ができるのです。このように子どもたちの未来に対して親として、地域の大人として責任を持ち、深い愛情を持って絆を紡（つむ）ぐことが私たちに課せられた大人としての使命ではないでしょうか。だからこそ、子どもたちへの教育に、学校や家庭だけに任せるのではなく、子どもたちを取り巻く社会環境全ての相互関係、つまり地域を含めた家庭・学校といった三位一体で子どもたちを育てることが求められているのではないのでしょうか。私たちは、地域の大人として責任を自覚し、相互に信頼できるコミュニティーを築き、子どもたちの信頼に満ちた笑顔をつくることこそが、この地域の幸せな未来につながると確信しております。

魅力あるひとづくり

軽率な一言や行動などで信用を失うといった内容のニュースが、最近頻繁に報道されています。信用を積み重ねて、お互いが信じ合える関係を構築し合う信頼を作るには大変な時間と労力を要します。また、『儲けを失うことは小さいことである。やる気を失うことは大きいことである。そして、信頼を失うことは取り返しのつかないことである。』とよくビジネスの世界で言われているように、信頼を失うことは商売人としては致命的なことであり、人としても軽視できない人間力の一つだと思います。だからこそ、まちづくりにおいてだけでなく地域や家庭・会社においても、お互いの信頼関係がかけがえのない財産として成り得ているのです。その人が地域から信頼されるために人間力を磨きあげればあげるほど地域との関係が深まり、そのような人たちがたくさんいるような地域になれば、ますます地域が活性化します。さらにはその人たちの会社が地域から信頼され、地域に無くてはならないような会社が増えれば増えるほど、地域がより一層発展し、地域から信頼できるコミュニティーの形成、つまり、光り輝く地域の形成につながっていくのです。

そして、それは私たちの青年会議所活動においても同じです。地域や会社、家庭でのリーダーという立場を全うするために、また、これからのかしまを背負っていく立場ということを鑑みると、私たちは魅力ある人格を備えなければなりません。だからこそ、開催時刻などの時間や、与えられた役職の責務について再度認識しあい、リーダーとしての当たり前のことを実践していかなければなりません。信頼を築くことは当然ながら、約束を守ることから始まります。約束を守るということは、誰しもが小さい時から教えられる当たり前のこと、社会のルールでもあるのです。今、当たり前のことを当たり前に出るような『ひとづくり』を改めて見直し、魅力あるまちづくりをするためにも魅力ある『ひとづくり』の育成が求められているのではないのでしょうか。

同志の拡大に向けて

波崎・神栖・鹿島の3LOMが統合し、いよいよ2012年度は15周年目を迎えます。『かしま青年会議所』が誕生した時の会員数は122名で県内でも有数の巨大LOMでした。統合時には、会員数が多いことで、広域的に有効かつ有意義な青年会議所活動

ができるものと誰しもが思いましたが、しかしながら、統合後は毎年のように会員が減少してきました。その原因は単に経済不況がもたらすものだけではないと思います。そもそも私たち自身の青年会議所活動に魅力を感じられないことが大きな要因で、修練・奉仕・友情のJC3信条を忘れてしまい、青年会議所の存在意義を勘違いしてしまったり、汗をかくこと・泥臭いことをすることが間違いだと思い、一生懸命さを見せることが恥ずかしいものと思ってしまったりと、自分達の活動にそもそも自信を持つべきなのに、持つことが出来ないメンバーが多くなっていることも原因なのかも知れません。全国708LOMに所属する約35000人の同士がいます。活動する地域は違えど、青年としての志は一緒です。他の青年会議所に触れる機会があれば、同じ同士に勇気づけられ、しいては自信を取り戻し、自分達のLOM、そしてその活動に誇りを持てるようになれるかもしれません。

今のかしま青年会議所には、同じ志をもった同志を増やしていくが最重要課題であり、私たち青年会議所の魅力を多くのひとに伝えなければなりません。メンバー一人ひとりが青年会議所という種を地域に蒔き、そして根付かせ、また次世代がその種を蒔き、地域や市民の間に深い根を張らしていくためにも、自分達の行動に責任を持ち、一粒の種に地域への夢と思いを込め大切にまいていく、これが私たちのこれからの青年会議所活動の大きな開花につながっていくのではないのでしょうか。5年後、そして10年後の地域の姿を見据え、まちづくり・ひとづくり運動を継続し、地域に真心をもって接していけば必ずや青年会議所の活動を理解し、我々の同志の拡大活動（100人LOMの復活）につながっていくものと信じております。そのために、行政区で分けられた地区事業を通じて多くの市民や各種団体との関わりをもち、新たな出会いやコミュニケーションの充実を図り、自分たちのまちは自分たちで創るという精神の下、汗水流し、時には涙し、苦楽を共に、地域との信頼をより強固にできるような活動が、今、必要なのではないのでしょうか。

15周年を迎えるにあたり

1998年に創立した『かしま青年会議所』は、2012年度で15周年を迎えます。10周年を迎えた2007年度から早いもので5年が経とうとしています。その間、2008年度には今後の10年へ向けて、かしま青年会議所はこの地域で何をしていく団体なのか、明確な将来像としてKASHIMA STYLEという未来ビジョンを掲げましたが、それが行動に現れているようには感じられません。組織にとって行動する指針は、とても大切なものです。もし仮に、設計図を作成せずに、建築物を建てるようなことがあれば、どんな建物になってしまうのか、想像しただけで恐さを感じます。またその逆で、設計図があるのにも関わらず、建築物に携わる人が、好き勝手に物を作ろうとするならば、こちら想像するだけで恐さを感じます。組織においても、「どちらの方向に」「どのように考え」「どのように行動」をしていくのか、がとても大切であると思えます。

しかしながら、2007年から現在において、社会基盤そのものを揺るがす出来事が

次々と起こっております。2008年のリーマンショックから、民主党政権の誕生、政治の低迷、そして2011年3月11日の東日本大震災。私たちが愛する地域の未来像を描くためにも、統合からの先輩たちが築いてきた活動を再度振り返り、この地域ための新たな設計図を創り、2017年度の20周年を迎えるメンバーが、「2012年度で作成をした設計図があつて良かった」と言ってもらえるようビジョンを掲げ、行動指針を創り上げる必要があると考えます。

組織としての強化

私たち公益社団法人かしま青年会議所という組織は、メンバー一人ひとりによって構成されており、運営されています。そして、そこには青年会議所独特の役職やルールが存在しており、どのような組織にもあるように、意思決定・合意形成のプロセスがあります。委員会・理事会・総会、それぞれが明確に運営され、かつ、メンバー全員が共通認識の下存在していなければ、それぞれがバラバラなものとなり、組織として体を成すことが出来ません。それぞれが有機的に運営されてこそ、組織として本来持つ力が発揮され、私たちが目指すべき運動が確固たるものとなるのです。だからこそ、それぞれが役職という立場を理解し、そこに求められている責任を全うし、青年会議所としての規律を守ることが、私たちの組織の強化につながっていくのです。同じ志の下、何らかの縁で集った仲間であればこそ、誰しもが主役として活躍でき、一人ひとりの力が十二分に発揮され、お互いに存在が認め合えることができる組織運営が大切だと考えます。メンバー一人ひとりが帰属意識を持ち、まずは自分達自身がかしま青年会議所を愛することが出来なければ、当然ながら、地域からの信頼など得ることは出来ません。再度、確固たる組織の運営と内部ガバナンスの強化に努め、メンバーから信頼され、そして地域から信頼されるような組織を目指していきます。

公益社団法人として

2008年12月1日に公益法人制度改革関連3法が完全施行し、2013年1月30日までの5年間に新制度に切り替えなければなりません。かしま青年会議所は、2009年に公益社団法人格を取得し、2012年度で4年目になりますが、地域の諸団体からの認知や公益社団法人としてのメリットを十分活かすことが出来ておりません。また、会員数も減少している中、全支出での公益事業費の割合を50%超すためには、外部資金の導入や、より一層管理費の削減に取り組む必要があります。何のためにお金が使われるのか、使われた結果どのような効果が期待できるのか、そしてその効果に対して適切な額なのかという判断基準とそれらの精査、適切な執行が必要となってきます。組織として地域から、そして、メンバーから信頼を得るためにも、公益社団法人格としてコンプライアンスを強化してまいります。

おわりに

二人以上の人が集まると、そこには必ず人間関係というつながりが発生します。私たち

は日々、多様なつながりを持ちながら生活を営んでいます。そのつながりの原則は「信頼」です。その信頼はどのように築き上げられるのでしょうか。「信頼」を銀行口座に例えると、私たちは人間社会において、自分名義の信頼口座を開設しているものとします。100人との関係があれば、100の取引先を抱えていると考えられます。そして、その信頼口座の取引明細事項は、自分自身の『言動』のことで、相手に対して『言ったこと・行なったこと』です。そして、その預金通帳に記載される金額は、信頼の預け入れであればプラス、引き出しであればマイナスとなります。預け入れをすることとは信頼を築くことで、時にはその人との関係を修復する行為が当てはまります。逆に引き出しすることとは、信頼を低下させる行為そのもので、足したり引いたりした結果の残高が、その相手に対する信頼残高とします。私たちは普段から、信頼口座での貯金を貯めるために、どんな小さな約束でも一つひとつ守るという行動をします。もし引き出しのマイナスとなるような誤った行為や行動をしたとしても、その時は一時マイナスになるかもしれませんが、誠心誠意の信頼回復の努力をすることによって、結果的に預け入れのプラスになる場合もありますが、信頼回復のための努力は、それまでの2倍、3倍といった労力を有することになります。だからこそ、私たちはもう一度、身近な大切な人に対してはどのような行動をとっているのか見直して、相手に対する信頼口座を考える必要があるのではないのでしょうか。「これぐらいなら、分かってくれるだろう」と伝えることを省き、その結果相手が期待しないような行動を取り、引き出しのマイナスを続けていけば当然、信頼は無くなっていきます。これがもし、人だけではなく地域や関係諸団体に対して同じようなことをしていたとしたら、私たちが推進したい運動や活動を手助けしてくれる人々や団体はいなくなってしまいます。私たちが地域で生きていくためにも、地域に生かされているという気概を持って、地域との信頼関係、メンバー同士の信頼関係、そして公益社団法人かしま青年会議所への信頼関係をより深く強い絆へとしていきましょう。

私たちは、まぎれもなく時代の変動期にいます。震災からの復興、経済の回復、そして市民の自立。私たちに求められていることは簡単なものばかりではありません。だからこそ、今、青年としての役割とその志をこの地域へ活かし、私たちに課せられた使命を十分に認識し、そして、着実に果たしていくことで、私たちの子どもたちの輝かしい未来と愛する地域を、よりよいものとして未来永劫繋げていきましょう。そして、青年会議所を次の世代に繋げ、より一層地域に必要とされる組織としてあり続け、私たちと同じ志を持った同士の拡大に努めていきましょう。私たちの行動が地域との信頼に大きく影響します。それは、地域の未来に大きく影響することでもあるのです。

2012年。(公社)かしま青年会議所誕生15周年という節目の年に、私たち一人ひとりの思いと行動が地域の未来を創り、そして我が組織の未来を創ります。『信頼創造』。かしま青年会議所の創始の精神に立ち戻り、私たちの足下を確実なものとし、一步一步、前進してまいります。